

児童生徒の学ぶ意欲を高める指導法の工夫と 学習環境づくり

第1章 総論

第1節 研究主題設定の背景

これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、奈良県の児童生徒は「全国的にみて国語や算数・数学の成績は比較的良好だが、国語や算数・数学が好きな子どもは全国と比べ少ない。」ということが明らかになっている。平成22年度全国学力・学習状況調査の結果でもその傾向は変わっていない。小学校国語Bの平均正答率（奈良県78.9%、全国77.8%）、中学校国語Bの平均正答率（奈良県65.0%、全国65.3%）、小学校算数Bの平均正答率（奈良県50.1%、全国49.3%）、中学校数学Bの平均正答率（奈良県45.4%、全国43.3%）である。成績は全国的にみて比較的良好な結果であるが、小学校国語を除く、小学校算数、中学校国語、中学校数学では「好きである」と回答している割合は全国平均より低かった。このことから、学習に対する意欲の低さが県の教育課題の一つとして挙げられ、学習意欲を高める取組が求められている。

さらに、調査結果からは、図1のように「国語の勉強は大切」、「算数・数学の勉強は大切」と回答した児童生徒の割合に比べて、勉強が好きだと思っている児童生徒の割合が低いことが明らかになっている。

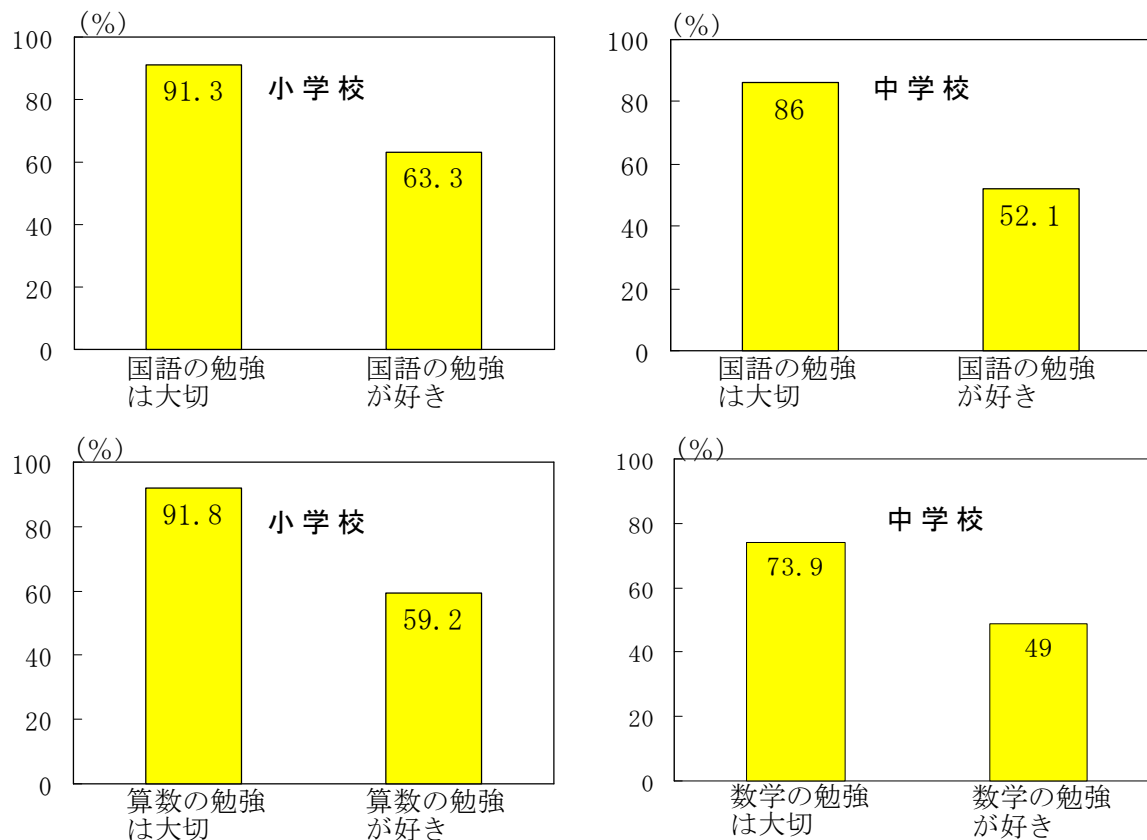


図1 国語、算数・数学に対する意識
(平成22年度全国学力・学習状況調査 奈良県)

勉強は大切だと思っているが、勉強はあまり好きではないということをどのように解釈すればよいのだろうか。勉強は大切だと思っているということは、勉強は必要であり、将来のためには勉強をしなければならないと考えていることのあらわれととらえることができる。また、勉強があまり好きではないということは、自ら学ぼうとする気持ちがふくらず、学んだという達成感や充実感が味わえないから、学ぶことを楽しいと感じることができないととらえることができる。このことから、勉強はしなければならないと思っているが、勉強して楽しいと感じることは少ないと考えられる。そこで、児童生徒が学ぶことが楽しく、好きであると感じるためには、自ら学ぼうとする気持ちを高め、学んだという達成感や充実感を味わえるような取組が必要である。こうした取組を進めることは、新学習指導要領の理念である、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断するなどの「生きる力」の育成につながると考える。

本プロジェクトでは、児童生徒が学ぶことを楽しいと感じ、自ら学ぶ意欲を高めるためには、授業における指導を工夫するとともに、学習環境の在り方についての研究が必要であると考え、「児童生徒の学ぶ意欲を高める指導法の工夫と学習環境づくり」を研究主題として設定した。

第2節 学習意欲と動機付け

学校教育法第30条第2項に「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」とあるように、「学ぶ意欲」が学力の重要な要素の一つと規定されている。

学ぶ意欲とは、主体的に学習に取り組む態度であり、児童生徒自身が意志をもち、進んで学習活動を求めようとする心の働きである。そして、児童生徒の学ぶ意欲を高めるとき、動機付けが重要であると考え。それは、様々な学習活動の場面で、動機付けは児童生徒の行動に大きな影響を与えているからである。

動機付けについて、高垣（2010）は、「人の行動を一定の方向に生起させ、維持、調整する過程ととらえ、近年の動機付け理論の主流となっているものとして、『自己決定理論』と『達成目標理論』を挙げることができる」としている。そして、「『自己決定理論』は、学習やパーソナリティの形成・発達の中核に、自己決定性の概念を位置づけた動機付け理論であり、以前は「やらされているから」といった外発的動機付けから学習を行っていた状態から、おもしろいから、やりがいがあるからといった内発的動機付けから学習する状態へと変化すること、すなわち動機付けの内在化を意味する」ととらえている。また、「『達成目標理論』については、学習場面において個人がどのような目標、目的をもつかによって、その後のパフォーマンスや達成を理解しようとするものであり、課題自体への興味・関心や習得、挑戦を学習の目標とする熟達目標が、高い成果や質の高いプロセスの構成に結び付くことが示されてきた」ととらえている。

本プロジェクトでは、学ぶ意欲を高めるために、動機付けが重要であると考え、学ぶ意欲を高める動機付けとして、「内発的動機付け」と「目標や目的を達成するための動機付け」の二つを考えた。たとえば、各教科における学習環境としての掲示物は、児童生徒がそれを見ることで、興味・関心をもち、自ら進んで学ぼうとするところから、「内発的動機付け」となる。また、小学校外国語活動で行った「プロジェクト型」外国語活動では、児童が課題や課題解決の方法など、必要な活動を自主的に決定するところから、「目標や目的を達成するための動機

付け」となる。このように、各教科・領域において、指導法を工夫し、学習環境を整えるにあたり、「内発的動機付け」と「目標や目的を達成するための動機付け」の二つにより学ぶ意欲を高めることができると考えた。

第3節 指導法の工夫と学習環境づくり

1 学ぶ意欲を高める指導法

学ぶ意欲を高めるために指導法を工夫するということは、授業における指導を工夫することはもちろんのこと、学校教育のあらゆる場面で児童生徒の学ぶ意欲を高めるための指導を工夫することである。つまり、児童生徒が授業で学習を行う前に、学びたい、知りたいという気にさせるしかけを工夫すること、授業の導入や展開等において自ら考え学ぼうとする教材等を工夫すること、授業で学習した後にもっと学びたい、知りたいという気にさせる手立てを工夫することである。

授業における学ぶ意欲を高める指導の工夫については、今までにもさまざまな取組がなされている。辰野（2009）は、学習意欲を高めるために授業において考慮すべき点を、①学習意欲が高まるような学級の雰囲気を作る、②学習課題を魅力的なものにする、③欲求・動機を適度に満足させる、④新しい動機を育てるなどと挙げ、児童生徒の実態を把握し、魅力ある学習課題を設定し、適切な教材を使って授業を展開すること、そして、児童生徒に成功感や達成感を味わわせることが学習意欲の向上につながるとしている。また、栃木県総合教育センターのリーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」（2010）では、学習意欲を高める授業のためには、①児童生徒の欲求や動機に働きかけること（例えば、「疑問や意外性を生み出すしかけ作り」や「児童生徒の生活実態と教材との関連」、「学習の見通しをもたせる」など）、②学習行動に働きかけること。（例えば、「学び合い、教え合いの場をつくる」や「応用発展の課題を与える」、「自己決定・自己解決の場をつくる」など）、③認知・感情に働きかけること。（例えば、「学習を振り返り、成果を確認させる」や「教師や他者から評価をしてもらう」など）の3点を挙げ、教師の働きかけや児童生徒自身の振り返りが学ぶ意欲をはぐくむ上で重要であるとしている。

2 学ぶ意欲を高める学習環境

学習環境について、高垣（2010）は、学習環境を「学習者を取り囲む外界のことであるとし、基本的に物的要素（たとえば、教室空間に存在する黒板、掲示物、机、筆箱、教科書、ノートなど）と人的要素（教師、複数の学習者）によって構成されている。しかも、個々の物的、人的要素が互いにかかわりあう過程を通じて創出される一人ひとりの行為（動作など）や表現（発言、表情など）をも含めた総体が学習環境となっている点に留意すべきであろう」としている。このように児童生徒を取り巻く学習環境には様々なものが考えられるが、本プロジェクトでは児童生徒の学ぶ意欲を高めるための学習環境として、物的要素の一つである掲示物などと、人的要素であるALTや教員などにも焦点を当てた。特に、掲示物については、学校では学級教室をはじめ、様々な場所に工夫された掲示物が行われている。生徒は掲示物から知識や情報を得、教員は生徒に知識や情報を伝え、考えさせるために掲示物を活用している。そのような掲示物を利用し、各教科の学習においても掲示物の情報から内発的動機付けによって、学ぶ意欲を高めることができないかと考えた。

学習環境を整えることは、児童生徒の学ぶ意欲を高めることに有効である。そして、授業において、指導法を工夫することで、さらなる学ぶ意欲の向上が期待できると考えられる。つま

り、学習環境を整え、そこに指導法が合わさればより大きな効果を発揮するものであると考え、表1のような内容により、研究を進めた。

表1 各教科等で研究した指導法と学習環境

教科・領域	指導法	学習環境
小学校：国語	低学年における読むことの指導	「読むこと」にかかわる掲示物
中学校：社会	話し合い活動	授業で活用する教材の掲示物
中学校：数学	グループ活動	生徒作品、発展的な内容や数学パズルの掲示物、
小学校：理科	「ホワイトボードやブラックボードの活用」	「自然クイズラリー」 「身の回り自然さがし」
小学校：外国語活動	「プロジェクト型」の外国語活動	「プロジェクト型」の外国語活動で使用する表現の掲示物 ALT（人的環境）
県立学校：ICT活用	ビデオクリップを使った指導	ビデオクリップ、視聴覚教材
県立学校：校内研修	校内研修（授業研究）を通じた授業力向上	教員（人的環境）

参考・引用文献

- (1) 文部科学省初等中等教育局学力調査室 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部学力調査課 平成22年度全国学力・学習状況調査
- (2) 高垣マユミ（2010）『授業デザインの最前線Ⅱ』北大路書房
- (3) 辰野千尋（2009）『科学的根拠で示す学習意欲をたかめる12の方法』図書文化
- (4) 栃木県総合教育センター（2010）『学習意欲をはぐくむ』